

## Room's

## 「低く」暮らす 座椅子、ちゃぶ台

## リビングデザインセンターOZONE にっぽんフォルム

インテリアに関する情報がそろったリビングデザインセンターOZONE（東京都新宿区）のショールーム「にっぽんフォルム」では3月27日まで、くつろぎを求めた「低い暮らし」を提案している。現代の生活スタイルに合った優れたデザインのテーブルや座椅子、照明器具などが紹介され、高齢者だけでなく、若い世代にも支持されているという。今なぜ、低い暮らしなのか。

文 森口忠  
写真 大山実

茶せんのようなフォルムとLED電球が美しい模様を映し出す「KAGUA/ペンダントライト」（8万9250円）。T脚テーブル（18万4800円）と右側のベンチ（20万3700円）は佐戸川清氏のロングセラー「WING LUX」シリーズ



座卓や座椅子、座布団といった床面に近い暮らしは、限られた居住空間を有効活用するものとして受け入れられてきた。しかし戦後、大きなダイニングテーブルや座面の高いソファなど外国の生活文化が伝わると、住まいづくりに取り入れられるようになった。そんな中、にっぽんフォルムでは「低座のスズメ ゆるり・ゆたかなリビングダイニング」をテーマに、改めて日本家屋に合った暮らしを提案している。

店内に入ると、畳の上にシンプルなデザインの小さなイスがあった。デザイナーの長大作氏が50年以上前、先代の松本幸四郎さん家族が使うためにデザインしたという「低座椅子」だ。座面までの高さは約30センチ。着物姿でも座

りやすく、畳を傷めない設計が施されている。

## 視界広がり、印象変わる

続いてフロア中央にあるベンチに座った。佐戸川清氏がデザインした「WING LUX（ウイング ラックス）」で、目の前のT脚テーブルは一般的なものよりも4センチ程度低い。

「わずか数センチの差と思われるが、実際に座ると視界が広がり、手の置く位置など印象がずいぶん変わります」と話すのは、担当の名和弥生子さん（37）。若いファミリー層に人気の商品だという。このテーブルの上に映し出される独特の光と影にひきつけられ、見上げると、茶せんにアクリル板

がついたような不思議な外観のライトがあった。デザイナーの藪下聡希氏が手がけたペンダントライト「KAGUA（カグア）」は、竹取物語のかぐや姫が現れた瞬間をイメージしたものだという。

にっぽんフォルムの森口潔店長（57）は「欧米の生活文化が伝わり、幸せな暮らしというイメージ、価値基準の一つに大きなソファやテーブルを置くことが定着した。でも畳でくつろいだり、こたつでのんびりするといった暮らしもあっていいはず。完成度の高いデザインの商品を選んだので、新しい暮らしの選択肢となればいい」と話す。



①岡山・倉敷を拠点に活躍する守屋晴海氏がデザインしたロッキング座椅子（7万8000円）はハンモックのような座り心地

②長大作氏が手がけたレザー張りの低座椅子（12万7050円）は半世紀以上のロングセラー。輪島キリモト（石川県）のちゃぶ台（17万3250円）や、建築家の伊東豊雄氏デザインによる照明「MAYUHANA II」（16万650円）、奥は若者に人気の「graf」が手がけたデイベッドソファ（25万円2000円）がある



北欧を代表するデザイナーのブルーノ・マットソンが天童木工（山形県）と仕上げたイージーチェア。コネクターで3人掛け（28万4235円）になる